

平成29年度おかやま協働のまちづくり賞応募用紙

平成29年10月31日

岡山市長 様

応募者代表 団体名 みちくさ会
氏名 樋口 俊介

平成29年度「おかやま協働のまちづくり賞」に応募します。

取組の名称	草木に負けない「住みよい地域と幸齢者」づくり	
取組の概要	<p>(背景) 大規模団地の造成から30年、斜面や宅地まわりには樹木が随分と繁茂し、道路の見通し悪化、屋根や樋への支障など生活環境への影響が見過ごせないレベルに。一方で、世帯主が一斉に高齢期を迎え、なかでも男性は地域での活躍の舞台が乏しい。</p> <p>(転機) 折しも、町内会総会で樹木伐採の必要性について声が出たのをきっかけにボランティアチーム結成の機運が高まり、平成28年1月に60~70歳代の男性有志による「みちくさ会」が結成される。</p> <p>(取組) 本会は、町内会や地元企業と役割を分担し、学区内の道路法面など住民にとって公益性の高いエリアの環境改善に向け雑木を計画的に伐採。</p> <p>(効果) 地域から感謝され、会員一同、益々意気軒昂な毎日。</p>	
協働団体	◆みちくさ会 ◆城東台西町内会、城東台東町内会、城東台南町内会 ◆レークタウン株式会社	
取組の実施期間	始期：平成28年1月～	<input type="checkbox"/> 平成 年 月終了 <input checked="" type="checkbox"/> 継続予定 <input type="checkbox"/> 平成 年 月頃終了予定 ※該当するものに☑し時期の予定し必要事項記入してください。

〔様式 1〕 協働による社会課題解決の取組の内容

取組の名称	草木に負けない「住みよい地域と幸齢者」づくり
平成 29 年度 募集テーマ	楽しんで年を重ねられる社会のために
テーマとの関連	<p>◆社会の第一線を離れた男性たちが、迷惑樹木の伐採という地域の課題解決に貢献することを喜びとし、まさに「年甲斐もなく」ハッスルしている姿が、高齢社会の生き甲斐づくりのモデルとなると考えた。</p>
目的・解決をはか りたい課題の状 況・目標	<p>◆旧称：東岡山レークタウンは開発会社が休眠の憂き目にあい、所有していた市道、調整池、保安林等の法面・斜面は資産価値がないことから売却できず、後を受けた管理会社においても「お荷物状態」のため、十分な維持管理まで手が回らないままとなっていた。</p> <p>◆造成から 30 年が経過し、斜面や宅地まわりには樹木が繁茂し、道路の見通し悪化、屋根や樋への支障など生活環境への影響が見過ごせなくなってきたため、住民からは継続的な対処を求める声があがっていた。</p>
取組の内容	<p>1 取組の対象：対象地域、対象者、対象人数等</p> <p>◆学区内の法面・斜面等の樹木・雑草の定期的な処理</p> <p>2 取組の担い手：取組への参加団体、参加人数等</p> <p>◆地域の有志によるボランティアチーム「みちくさ会」、毎回概ね 10 名が参加</p> <p>3 活動内容、実施方法などを具体的な活動ごとに箇条書きでお書きください。</p> <p>◆みちくさ会は年間計画に基づき月 1 回程度、学区内の法面・斜面等の樹木・雑草を伐採 ◆機材と燃料は町内会が負担 ◆伐採した樹木等の処分は管理会社が負担</p> <p>4 取組をWEB等で告知している場合はそのURLをお書きください。</p>

	団体名（代表者）	この取組で果たしている役割	団体自身にとってこの取組をする理由やメリット
協働団体とその役割等	みちくさ会	雑木等の伐採	地域貢献による生き甲斐と仲間づくり
	城東台西町内会 城東台東町内会 城東台南町内会	機材や燃料の提供 住民への広報	安全で良好な生活環境の維持
	レークタウン(株)	樹木（産廃）処分 時に雑木等の伐採の共同作業	所有者としての責任遂行 地域との連携強化
取組の工夫 取組の特徴	<p>◎地域資源や人的資源の活用など工夫した点</p> <p>◆第一線を退いた男性が公園遊園地等愛護委員会で活動したり、団地近くの畑を借りて農作物を育てるなど、地域には元気で時間のある（？）方々がおられた。</p> <p>◎協働する各団体の役割分担や、団体間の目的の共有の仕方、対等な協働関係を築いていくための工夫など</p> <p>◆機材や資金がない中のスタートでしたので、各町内会がチェーンソーや草刈り機、燃料などを提供し、法面等を所有する管理会社が伐採樹木の処分費用を負担するなど、お互いができる範囲で分担することで、取り組みが可能となっています。</p> <p>◎取組の特徴やアピールポイント</p> <p>◆斜面での身体にきつい作業ですが、あまりにも生い茂っているのを見ると、「今日はこの辺で」となかなか言い出しにくいのか、年齢を忘れて奮闘するものですから、斜面の景観が劇的に改善し、住民から喜びの声をいただいています。また、それを励みに精を出しています。</p> <p>◆作業終了後、あっちが痛いこっちが痛いと笑いながらのひとときや、締めくくりの懇親会も楽しみの一つです。</p>		
成果・効果	<p>◆町内会・住民との関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内会は、月例の広報等で「みちくさ会」の活動の様子を紹介。また、町内会の総会では、出席者から「町内会として、みちくさ会に何らかの支援を検討してはどうか」と提案があった。 ・町内会が6月に行った住民アンケートでは、「みちくさ会」に対する感謝の声が寄せられた。 <p>◆企業との関係</p> <ul style="list-style-type: none"> ・法面等を所有する管理会社には処分費用を負担していただいていたが、みちくさ会の「本気」の仕事ぶり（伐採の成果）を社長が大いに評価され、社員が手伝いに参加して下さるなど、信頼関係が強まった。 ・また、きれいになった法面に、桜の植樹を申し出ただき、協働の象徴として20本の苗木が植えられた。 		
今後の活動展開 など展望	<p>◆女性の入会希望者が現れるなど、会の認知が少しずつ高まってきていることから、意欲のある多様なメンバーを受け入れながら、今後は地域貢献のフィールドを広げることも視野に入れ、元気に地道に活動を続けていきたい。</p>		

平成29年度「おかやま協働のまちづくり賞」
～ 楽しんで年を重ねられる社会のために ～

◆応募にあたって

取組の名称

草木に負けない「住みよい地域と幸齢者」づくり

応募にあたって

社会の第一線を離れた男性たちが、迷惑樹木の伐採という地域の課題解決に貢献することを喜びとし、まさに「年甲斐もなく」ハッスルしている姿が、地域の共感を呼び起こしている様は、高齢社会の生き甲斐づくり＝「幸齢者」のモデルとなると考えました。

◆応募団体

みちくさ会

- ・東区城東台学区の住民有志による環境美化ボランティア団体
- ・平成28年1月、当初は8名で結成。現在は15名

結成の経緯

城東台学区はJR山陽本線上道駅にほど近い山裾のブドウ畑を造成してできた大規模団地です。造成から30年が経過し斜面や宅地まわりには樹木が随分と繁茂し、道路の見通し悪化、屋根や樋への支障など生活環境への影響



が見過ごせないレベルになってきていました。折しも、町内会総会で樹木伐採の必要性について声が出たのをきっかけに、ボランティアチーム結成の機運が高まりました。

結成の核になったのは、学区近隣で畑を借りて野菜やブドウを栽培している60歳代～70歳代の男性諸氏です。

◆環境改善が進まなかった背景

東岡山レークタウンの名で開発された「城東台」は1200戸を超える住宅が建ち並ぶ大規模造成団地ですが、開発を手がけた会社が休眠の憂き目にあい、所有していた資産のうち、売却の難しい法面や斜面は、後を受けたガス会社が所有されていますが、いわゆる負の遺産であり、そ

の延べ面積が広いことから十分な維持管理まで手が回らないのが実情でした。

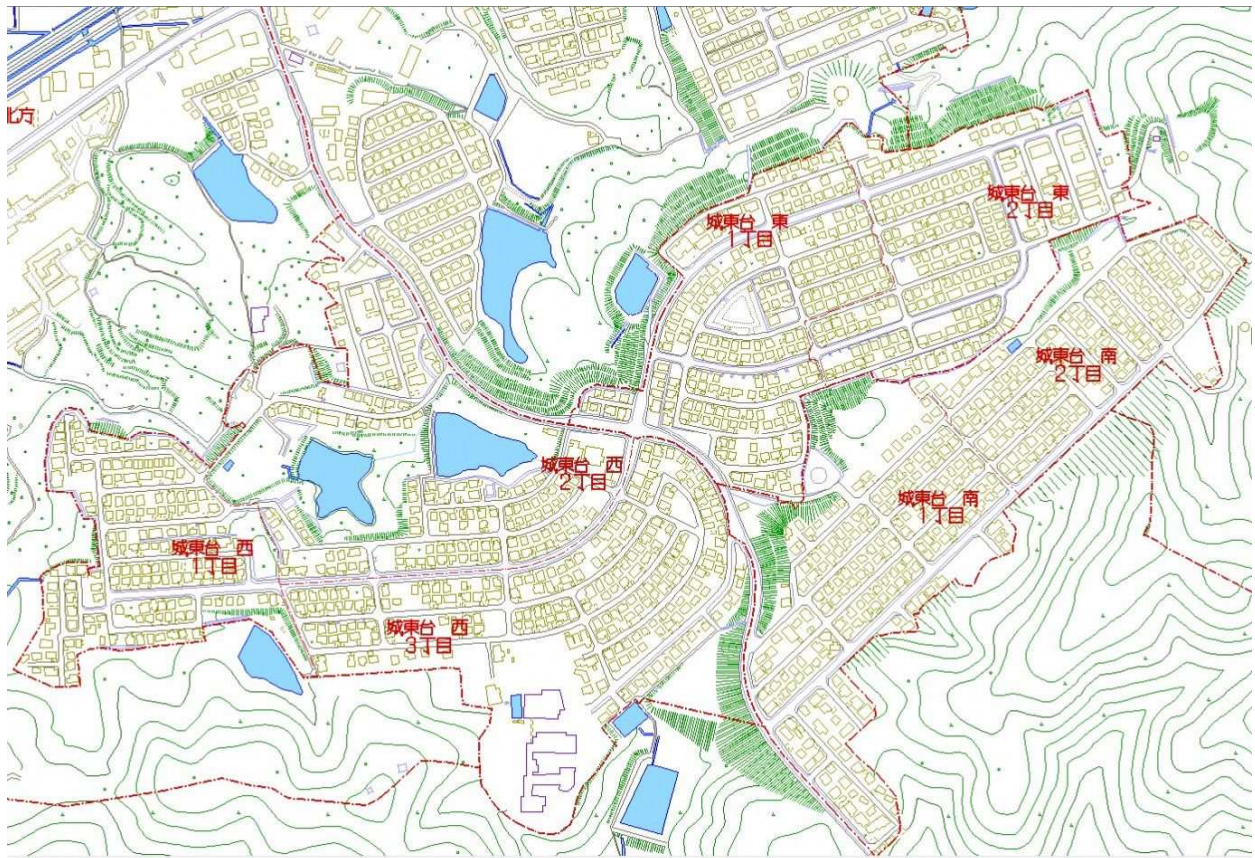
◆みちくさ会を中心とした協働のスタート

みちくさ会

会を結成するに当たり、やる気はあっても活動に必要な機材も資金もない中、まず町内会役員と相談し、町内会からは「有償ボランティア」として対価を受け取ってはどうかとの打診がありました。それを潔しとせず、無償のボランティア団体として地域貢献を目指しました。

町内会

法面等の雑木処理は地域課題として早くから認識されていましたが、所有者は開発企業の後継であり、町内会自らが人手も資金も出して対処するには二の足を踏んでいたところ。みちくさ会からの打診を受け、チェーンソーや草刈り機、それに燃料を提供することにし、また、該当の土地を所有する企業との間での調整を担いました。



(※緑色の斜線が濃いところが法面や斜面、等高線は雑木林や保安林です)

企業（レークタウン株式会社）

立ち枯れの松や、住宅の屋根などに迷惑をかける樹木など、安全面で必要な対処だけでも負担が大きく、美化まで踏み込む余裕はないのが実情ですが、地域の方が頑張られるということで、処分にかかる産廃費用を負担することにしました。

◆協働の成果や効果

みちくさ会

当初より年間計画を立て、着実に持続した取り組みを目指しました。

斜面での身体にきつい作業ですが、あまりにも生い茂っているのを見ると、「今日はこの辺で」と、お互いなかなか言い出さず、年齢を忘れて奮闘するものですから、斜面の景観が劇的に改善し、まず何よりも自分たちが自分たちの仕事ぶりに驚き、いい汗をかいた充足感を感じました。

作業終了後、あっちが痛いこっちが痛いと言いつつ笑いながらのひとときや、締めくくりの懇親会も楽しみの一つです。



町内会・住民との関係

町内会は、月例の広報等で「みちくさ会」の活動の様子を紹介しました。

また、町内会の総会で、出席者から「町内会として、みちくさ会に何らかの支援を検討してはどうか」との提案があったり、町内会が行った住民アンケートで、みちくさ会に対する感謝の声が寄せられるなど、住民の認知が高まるとともに、みちくさ会にとっても励みになっています。

※写真（上）見通しの悪かった交差点がスッキリ

企業との関係

みちくさ会の「本気」の仕事ぶり（伐採の成果）を社長が大いに評価され、社員が手伝いに参加して下さるなど、信頼関係が強まりました。

また、きれいになった法面に、桜の植樹を申し出ていただき、協働の象徴として 20 本の苗木が植えられました。

※写真（下）花見ができる名所になればと植樹された桜の苗木

